

特集：持続可能な学習教育支援システムの開発と運用

大学院生の補完的学習環境としての講義アーカイブシステムの運用と分析

吉良 元*, 長谷川 忍**

Application and Analysis of Lecture Archiving System as Complementary Learning Environment for Graduate Students

Hajime KIRA*, Shinobu HASEGAWA**

The main topic addressed in this paper is to report our practices and analyses regarding to a JAIST lecture archiving system. This system records face-to-face lectures mainly held at School of Information Science, JAIST, which stores and delivers the high-definition quality streaming videos as complementary learning materials for graduate students who have diverse backgrounds. This paper focuses to analyze the access log and the students' questionnaire from our 4 years' experience in order to find improvements of the system for sustainable system updating.

キーワード：講義アーカイブ, 補完的学習環境, 非同期学習, アクセス分析, 利用スタイル

1. はじめに

北陸先端科学技術大学院大学（以下、JAIST）は、大学院教育に特化し、学部を持たない大学である。JAISTには、異なる分野からの入学生や留学生、社会人学生など、多様なバックグラウンドの学生が在籍する。このような状況から、基礎的分野の習得機会を増加させ、確かな基礎学力と幅広い分野の素養の下に、論理的な思考ができる大学院生を育成することが、JAISTが組織を挙げて取り組むべき重要な課題となっている⁽¹⁾。

この課題を解決するための一つのアプローチとして、JAISTでは2006年度より、学生が非同期に講義の予復習を行うための講義アーカイブシステムを運用している⁽²⁾。これは、学内で実施される講義や講習会などの教育シーンを、映像・音声のデジタルデータとして収録し、体系的に管理・配信するものである。

より質の高い教育を提供する観点から、講義アーカ

イブシステムに求められる機能や性能は、カリキュラムの変化や新たな技術の登場に伴い、時とともに変化する。このためJAISTでは、講義アーカイブシステムが対面講義を補完する学習環境として効果的なものとなるよう、運用状況の分析や学生アンケートなどを実施し、4年に一度の頻度で更新を行っている。こうしたサイクルを繰り返すことにより、講義アーカイブシステムを持続的な大学院教育の支援環境の一環として整備している。

本稿ではまず、講義アーカイブシステムに関する開発時のシステム要件と実際に運用中のシステムの概要について述べる。さらに、4年間の運用記録の分析とアンケート調査の結果に基づいて、システム要件の充足状況やさらなる課題について議論する。本稿の目的は、それらの議論に基づいて、設計時点でのシステム要件がどの程度達成されたかを検討し、今後の運用に向けた課題をリストアップすることである。

* 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科 (School of Information Science, JAIST)

** 北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター (Center of Graduate Education Initiative, JAIST)

受付日：2014年5月1日；再受付日：2014年7月21日；採録日：2014年9月1日